

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 豊川保育園
施設名	としま みつばち保育園
報告者	共田 鍾貴 (園長) 菊池 真人 (保育士)
住所連絡先	03-6903-3290 t-mitsubachi_enhou@toyoho.jp

○タイトル (保育計画)

運動器具を通して、園庭遊びをより豊かにし、身体発達を促す

○主な助成備品

安田式テクノロマン鉄棒8本セット
安田式テクノロマン平均台幼児・小学生用8本セット
安田式テクノロマン平均台低年齢児用4台セット

1. 保育計画策定の目的

としま みつばち保育園は、2018年10月に建設された、まだ新しい園です。順番に保育教材を整えていく中で、私たちも子どもたちにとって何が必要か、どんな経験をさせたいか日々考えていました。そのような中、2019年の春に、園庭にあるスロープの手すりで、前回りやぶら下がりをする4歳児と5歳児の姿がありました。この姿から、園庭での遊びを見直したときに、身体を使って遊ぶ教具がほとんどない事が話題となりました。スロープ自体も角度が付いた物なので、ちゃんとした環境で遊ばせてあげたい。また、園庭での運動遊びをもっと充実させたいと考え、今回可動式の鉄棒と、平均台を取り入れたいとなりました。

2. 具体的な実施内容

可動式の鉄棒と、平均台は園庭に置き、自由遊びの時間や活動の際に出して遊びました。鉄棒は主に4歳児、5歳児がよく遊んでいました。ぶら下がりやコウモリ、足抜き回り等、友だちと見せ合いながら楽しんでいました。



大人としては今楽しんでいることを大切にしつつ、回る感覚や逆さまになる感覚の中で、自分の身体を操作できるようになってほしいと考えました。そうした動きを獲得するために、前回りや逆上がり等の技に繋がるよう援助をしていきました。

回ったり逆さまになったりする感覚に慣れておらず、怖がる子もいました（0歳児期に“高い高い”や揺らし遊びをたくさん行うことで、こうした感覚は怖くなくなると言われています）。しかし、鉄棒を「嫌い」と言ってやらない子はいませんでした。仲良しの友だちに支えてもらいながら「もう1回やってみる」と、挑戦する姿が印象的でした。好きな友だちがいるからこそ“やってみよう”という気持ちになれたのでしょうか。

4、5歳児が楽しんでいる姿を見て刺激をうけるのは、同じフロアで過ごし、自由遊びも一緒に過ごす3歳児。「入れて〜」と鉄棒に入れてもらおうと、見様見真似でぶら下がっては「見て見て!」と、大人や4、5歳児に見せるのでした。

3. その成果と評価

夏の暑い時期や雨の日は、可動式の鉄棒をホールに置き、子どもたちがいつでも鉄棒をできるようにしました。たくさん練習をし、色々な技ができるようになった子どもたち。大人が「運動会で何やりたい?」と、クラスの集まりで聞くと「鉄棒で前回りができるようになったところ見せたい」と、張り切って言う程でした。その時、前回りがもう少しでできそうだったSちゃんは「前回りできるようになって、運動会で見せたい」と、気持ちを伝え、練習に励みました。Sちゃんが練習するときには、仲間が集まって身体を支えたり、「もうちょっとお腹に力入れるといいよ」と、助言をしていました。自分だけができればよいのではなく、運動会ではクラスのみんなができるようにと、子どもたちも考え、仲間の姿を見合っていました。

こうして運動会では全員が前回りを披露することができました。子どもたちは楽しく遊びながら、段々と目標に向かってがんばってみようという気持ちを持つことができたと思います。また、運動会までの取り組みの中で、仲間の姿を見て刺激を受けたり、支えたりと、クラスの仲間関係も育っていきました。運動用の教具を使う中で、子どもの仲間関係づくりと、身体づくりという視点で保育を展開することができました。



4. 今後の課題と展望

現在は1歳児や2歳児も園庭での遊びの一つとして、鉄棒で遊んでいます。園庭に子どもたちが好きな遊びが増えたことは本当に良かったと思います。

今後としては、鉄棒や平均台という教具を、ただの遊具で使って終わるのではなく、子どもの身体の発達や運動指導にどのように繋げていくか、職員間でより学んでいく必要があると考えます。卒園までに全員が逆上がりをできるようにする、といった指導がしたいのではありません。大人が鉄棒等の指導方法が分かれば、子どもたちにそうした教具を使うときの経験を豊かにできると考えるからです。



以上